［つくり手の声］vol.2

暑さ寒さとつき合う知恵

1 2 3 4

全国の木の家ネットの会員は暑さ寒さとどのように向き合っているのか？

今回の「ブログ活用コンテンツ／つくり手の声」では、「暑さ寒さとつき合う知恵」について、職人がつくる木の家ネットのつくり手から寄せられたエントリーを編集してお届けします。

> 日本の気候の特徴は、四季があること。しかも、南北、東西に長く、地域によって少しずつ気候が違うこと。その気候とうまく付き合いながら暮らす知恵の集大成が日本の住まいだったはず。ところが最近では、住まいの価格（とりあえず取得する時の価格）を安くするため、大量生産の住宅が建設されるようになり、日本の気候とうまく付き合う知恵は忘れ去られて、地域の気候風土と付き合うというよりは、機械による空調設備に大きな力を借りる方式が主流になってしまいました。
>
> 滋賀、岩波さん

今、主流の家づくりは、日本全国同じような家を大量生産するやり方です。外の気温や湿度には影響されないようなハコをつくり、そのハコの中を空調することによって快適な室内環境をつくります。それぞれの家が空調に頼っている結果、都市はヒートアイランド化し、人間も生体としての温度調節機能のバランスが崩れるということが問題になっています。これからの、環境との共生や人としての居る力を引きだすことにも配慮した家づくりは、どこに向かえばよいのでしょうか？

日本にはそれぞれの地域独特の気候風土があります。その中で、人は昔から、空調などの設備はなくとも、その風土に生きる知恵をもっていました。忘れ去られかけているその知恵を、もう一度見直してもよいのではないでしょうか？

木の家ネットのつくり手は、家の外の環境と室内とを遮断するのではなく、どのように外の環境と折り合いをつけたらいいかを考え、自然の陽射しや風を取り入れることで、なるべく空調に頼らないで済む家づくりを考えます。どのようにそれを実践しているかとなると、地域によっていろいろなのですが、多様な中にも「自然に対する構え」としての共通点を見いだすこともできます。

それは、自然に対して「閉じる」ことで不都合な要素をシャットアウトするのではなく、自然に対して「どう開くか」に、工夫の力点をおいていることです。軒の出、空気の流れや風通しの作り方、土壁といったハード面から、すだれ、家を囲む緑、打ち水といったソフト面まで、木の家ネットのつくり手がブログエントリーに書きこんださまざまな工夫を、ここにご紹介します。

共通の姿勢

まず、共通してみんながあげているのは、外部環境との交流の中で、その季節はその季節らしく、エアコンに頼らなくても過ごせる家、ということでした。

> せっかくのすばらしい環境を拝借し、日々の変化が穏やかに感じられる家
>
> 山梨、松田さん

> エアコンに頼らず、風の通る家づくり。
>
> 静岡、寺川さん

> 夏の冷房はエアコン！と決めている住まい手の方が大半だと思いますが、全く機械を使わずとは言わないまでも、せめて扇風機ぐらいまでで夏を乗り切るような暮らしをめざしたい。自分の手で修理できる範囲の「ローテク」が精神衛生上も気持ち良いと思います。
>
> 愛知、中村さん

> 必要以上に高気密にしたり高断熱にすることは、少なくとも関東のエリアであればあまり気にすることはないように考えています。
>
> 埼玉、宮越さん

> 一番つらいのは夏でしょうね。（なのに）今や皆、夏を旨としないエゴな（設備に頼り、高気密高断熱な）住宅でそれを乗り越えようとしているのが実情だと思います。
>
> 東京、林さん

なぜ、高気密高断熱である必要がないのか。その理由を書いた方もいます。

> 緯度はイラクのバクダットと同じで、世界の主要都市のズーッと南方に位置している。先進欧米諸国と全く違う気候なのに、欧米の住宅工法を参考にしての九州での家づくりには疑問が多い。気候風土無視の代表は、エアコン頼りの高気密高断熱住宅だろう。九州でも厳寒の日は年に１週間ぐらいある。鹿児島だって雪が降ったこともある。その1週間の寒さが脳卒中を起こすとか、恫喝商法まがいのコピーで高気密高断熱住宅会社は住宅販売を行う。1週間の暑さ寒さ解消が、残りの358日に害を与える。
>
> 熊本、古川さん

> 現在の社会情勢や人々の生活形態を考えると、機械による空調をまったく否定するのは少し問題だと思いますが、空調がなければまったく快適さが得られない住まいというものは、環境を考えなければならない今後を考えると、あまり良くないものだと思います。
>
> 滋賀、岩波さん

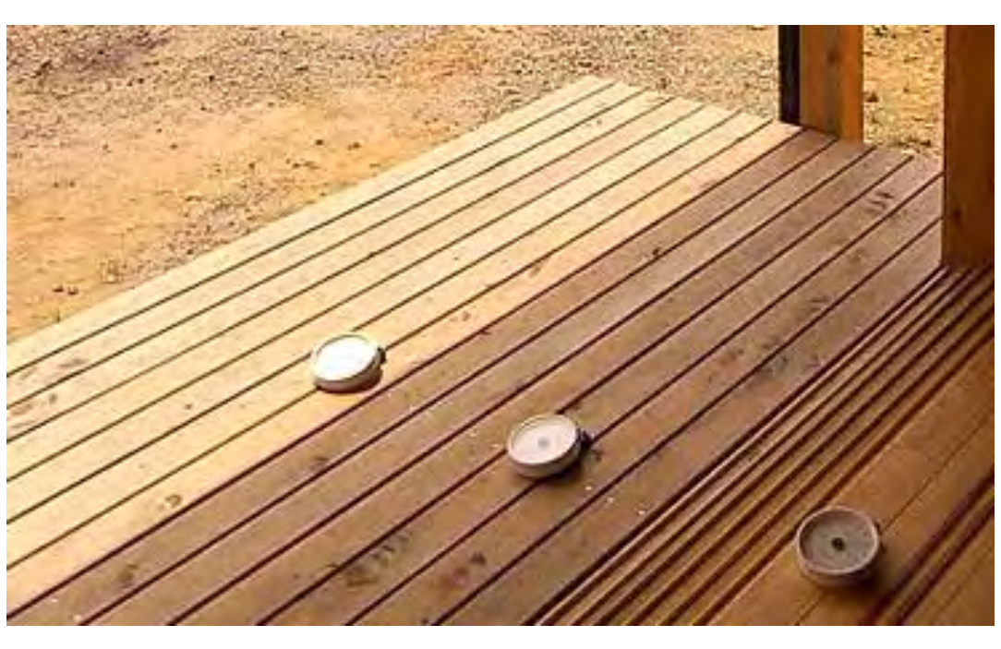
ある程度の暑さ、寒さ。それは、人間のカラダにとってもいいことなんじゃないか・・という視点の意見もありました。

> 夏は涼しく、冬は・・正直、冬は寒いという声も一部には聞かれます。しかし高気密高断熱の暖房・冷房による快適性は人間の抵抗力を弱めるだけのものであり、目指さなくていい。暑い夏には汗をかき、冬には寒さを感じるのが人間にとって大切なのではないか、と思います。
>
> 三重、高橋さん

> 暑さ寒さにできるだけ順応できる身体を持ちたいものです。ハードな建物や設備機器にばかり頼らないで、季節に合わせた「装置」や「建具」、衣類や食事などの助けも借りましょう。そう先人たちは様々な知恵を持っていたのですから、それを利用しないのはもったいない、もったいない。
>
> 東京、林さん

> クーラーが効いた中での仕事をした頃、それなりに快適ではあったけれど、室外へ出る時の不快感はすごかった。温度差によるヒートショックは確実に自律神経を冒すことを実感。都内での打ち合わせがあると、真夏の電車の乗り降りなどで明らかに体調がくずれます。皮膚は敏感ですが、急激な変化に体全体は対応はできないのです。暑い状況は快適ではないのですが、水分を補給し夏は汗をかくことによって、皮膚が体調をコントロールしてくれ、体には負荷がないということなのでしょう。設計を行っているものの立場としては建物の性能はもちろん重視していますが、皮膚の性能を喚起することも考えたほうが良さそうだということは間違いではなさそうです。
>
> 埼玉、宮越さん

エアコンに頼らずに「季節とつきあえる家」にするためには、温度や湿度といった数字だけを単純にクリアすればいいのではなく「室内での体感温度をできる限り下げる事。（山口、久良さん）」という視点が必要です。その「体感温度」の中身は、じつに複合的なものです。熊本の古川さんが、いろいろな要素をあげてくれました。

> 人が、快適・不快を感じるのは温度だけではない。温度だけで表現するのが1次方程式だ。しかし、人の感覚は、温度・輻射熱・湿度・風・更に気分まで複雑に絡む複次方程式だ。難しい。
>
> **＜温度＞**
>
> 省エネのため、夏エアコンの温度は28度以上に、と言われると、28度が快適温度と思ってしまうが、湿度や風を複合的に利用すれば33度だって快適に住める。
>
> **＜温度・輻射熱＞**
>
> 輻射熱とは、発熱体温度を物にあたると、その物の温度が上がる事をいう。寒い冬、太陽が雲から顔を出せば暖かく感じ、雲に隠れれば寒く感じる。気温は変わっていないのにその数秒でその暖かく感じるのが、輻射熱である。輻射熱をさえぎることで、体感温度は変わる。
>
> 
>
> 室内の温度は31度である。縁側は35度。デッキは41度である。デッキ部が輻射熱の影響を受けているのである。
>
> **＜人の体感センサー＞**
>
> 人の温度を感じる感覚は夏と冬では違う。冬の24度は暑く感じるが、夏の24度は寒く感じる。冬と夏では、大体5度ぐらい感覚に差がある。この人感センサーの切り替えは５月と10月である。この切り替え時に、温度管理を間違えるから体調を崩す。
>
> **＜潜熱＞**
>
> 夜気温は下がっているのに、寝苦しいのが、潜熱。最近の住宅は、断熱性能が向上したので、一度暖めたら、なかなか冷めない。潜熱が夜まで持ち越す。
>
> **＜風＞**
>
> その土地にあった、風が抜ける道を家の中にうまくつくることができれば、かなり快適に過ごせる。
>
> 熊本、古川さん

1 2 3 4

関連する記事はこちら

大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家

設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家

工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2019年6月15日
やさしくて強い、理想の家を求めて: アイ設計研究室　大前泰秀さん

2019年5月15日
磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん

2019年4月20日
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん

2019年4月10日
本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん

2019年1月5日
新春特集 2018年のベストショット集

2018年12月29日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編

2018年12月17日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編

2018年12月14日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編

2018年9月4日
番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん

2018年8月15日
鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事

冬の温熱調査合宿報告
15件のビュー

大工たちによる「家戻し」の記録
12件のビュー

設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して
11件のビュー

第三回これ木連フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告
11件のビュー

「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート
11件のビュー

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
11件のビュー

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
11件のビュー

古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー

設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
10件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

この記事のタグ

木の家の暮らしと子育て
環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事

2005年7月25日
四天王幼稚園ワークスクール：ぼくがこれ、つくったんだ！

2008年6月27日
大工・綾部孝司さん(綾部工務店)：原点回帰

2010年5月31日
設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

2014年6月5日
大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家

2004年7月25日
五月組：あのサツキとメイの家を建てる

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

[つくり手の声] vol.2

暑さ寒さとつき合う知恵

1 2 3 4

Like 0　ポスト

基本は風と日差しとのつきあい方

さて、それでは、どのようにして「複合的に」暑さ・寒さとつき合えばよいのでしょうか？　まずは、ほとんどの回答を占めた暑さと湿気対策について、まとめました。かいつまんでいうと、軒を出して夏の太陽をさえぎり、家の外から内へ、そして外へと蒸し暑い空気が抜けていく風の通り道をつくること、そして自然素材の調温調湿機能を引き出す、ということでした。

基本的なアウトライン

> 当たり前のことばかりですが、冬の日射を入れ、夏の陽を遮る庇の出。屋根通気、各室及び家全体の風通し。すだれや植物による遮光。開口部は雨戸、ガラス戸、障子、襖などの建具を複合的に組み合わせて室内気候を調節すること。熱容量の大きい材料、ボリュームのある木材、土壁、漆喰等の塗り壁を室内側に露出させて多く使う。
>
> 東京、長谷川さん

> 長い庇を造り、風通しの良い間取りを考えるという昔の日本の住まいの形をそのまま踏襲すれば、日本の夏とはうまく付き合いえる。これでかなりの不快感から逃れることが可能です。
>
> 滋賀、岩波さん

> 空気の流れを作り、日射を遮ることで暑さをしのぐ。
>
> 埼玉、宮越さん

> 風通しと庇による日照の調整。室内の調湿機能を高める土や木材などの自然素材だけの室内の内装。
>
> 愛知、大江さん

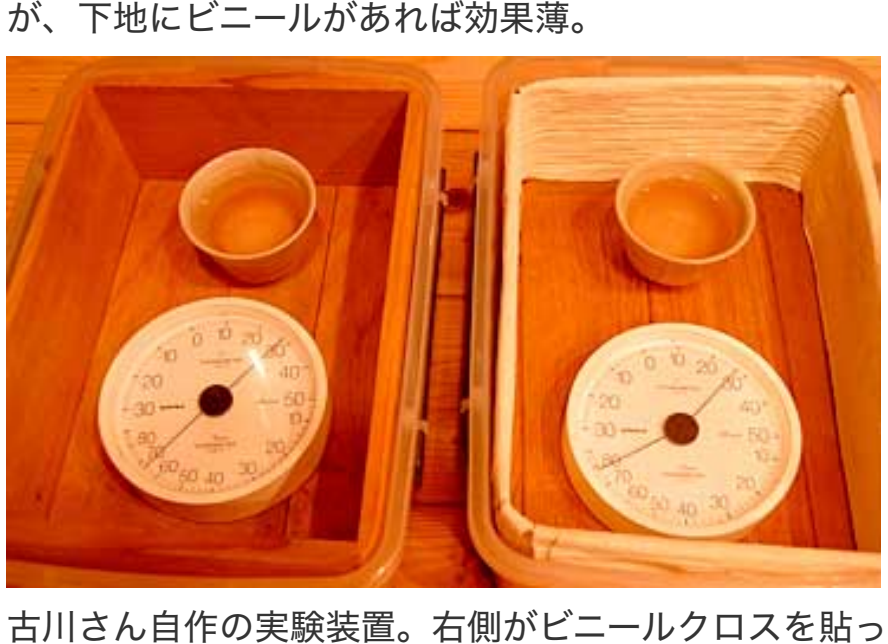
以下、みなさんの発言を、要素別に整理してみました。

[1]なにで作るか？湿度を吸収する自然素材。蓄熱性と気化熱を期待できる土壁。

素材

> 調湿効果のある素材で造ることです。 杉や檜の無垢板と土壁。これが一番です。
>
> 愛知、丹羽さん

> とにかく多湿な我が風土では、ビニールに包まれ、塗装されたフローリングでは湿度の高い日には室内はべとべとします。それらと比べて、やっぱり木の家は最高ですよ。ほどほどの断熱、気密、しっかり通風の私の事務所で比較体験済みです。
>
> 東京、林さん

> ナイロンの肌着と木綿の肌着を着ればとどちらが爽やかかと問えば、全員木綿の肌着と答える。吸湿効果で体感湿度を下げるからだ。最近の住宅は結露防止対策で、部屋内にビニールを目貼りする。ナイロンの肌着を着ているようなもの。珪藻土で吸湿効果があるという人がいるが、下地にビニールがあれば効果薄。
>
> 
>
> 古川さん自作の実験装置。右側がビニールクロスを貼ったもの 木の家と、ビニール目貼りの家を比較するに、実験装置をつくった。内装に木で仕上げた箱と、ビニールクロスを貼った箱に、夫々、人と見たてたお湯を入れて比較してみた。木で仕上げたもの方がビニールで仕上げたものより湿度は12%低い。木の箱が吸湿効果が高い証明である。この木綿の肌着や木の仕上げと同等の建築内装材は、三和土・藁畳・漆喰・板壁である。なんだ、昔の日本の家だ。
>
> 熊本、古川さん

> 湿度を下げるため、素材は土壁、杉を主とする。
>
> 山口、久良さん

> 無垢材、漆喰等で仕上げる室内環境の心地良さ(蓄熱性、湿度の調整等)
>
> 三重、高橋さん

土壁

>
>
> 温湿度調整をしてくれるので、私は土壁を「働く壁」とは呼んでいます。「耐力壁」としての機能を主として考えられる方、土壁の質感やナチュラルなイメージ素材として扱われる方など多様だと思いますが、私にとっては土壁こそ住み心地の良い室内環境をつくってくれる最高の素材ではないかと思っています。また、国産杉材をつかった貫構造は、土壁実現のためにも必須。また、土壁にすることで準防火地域でも（高価な防火処理をした木材を使わずに）下見板張りとできるのはうれしいこと。
>
> 東京、林さん

> 壁というものを見直し、土壁の家作りに取り組んでいます。
>
> 三重、高橋さん

> 壁の断熱に関しては土壁を基本に考えます。構造体としての耐力壁でもあることと、壁の中からの水分の蒸発時の気化熱によって室温の上昇が抑えられるため、土壁を。高温多湿の地方には有効な壁。
>
> 愛知、中村さん

> 土壁の熱容量の効果は、 冬にも夏にも効果的に働いてくれていると実感しています。
>
> 愛知、丹羽さん

> 三重地区では、まだまだ「荒壁」が、減ってきてはいるものの、普通に施工されています。資源そのものの循環にもなるし、荒壁の「夏のひんやり感」は、温暖化の中での、いろんな意味で救世主です
>
> 三重、池山さん

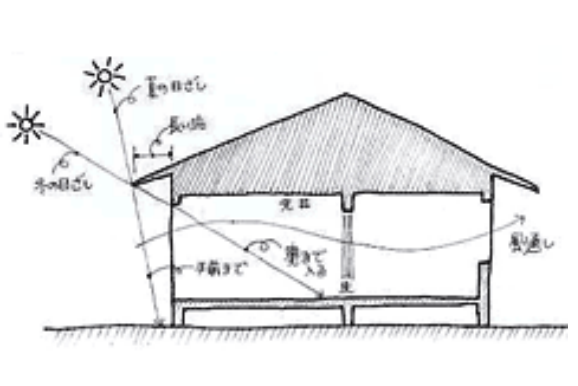
> 残念ながら、費用の関係で土壁の蓄熱性能を活かすはできていませんが、余裕があれば土壁の蓄熱性能を活かすことが出来れば、夜と昼との熱の移動を平滑化することも可能になります。
>
> 滋賀、岩波さん

> 長野県臼田で、小舞土壁とラスモルタル漆喰塗りとの二重外壁にし、両者の間に閉じ込めた空気層をもうけた家を建てました。壁は断熱材なし、メイン暖房はいずれも全館サンポットストーブ１台でまかなっています。冬、ストーブを前の晩10時ごろ消しても、朝、例えば外気温?10°C位の日、室内は10°Cを下がらないとのこと。ちなみに、同じ仕様の家を横浜市保土ヶ谷区でもつくったところ、夏の昼外気温３４°C、室温３２°Cでもクーラーなしで過ごしているとのこと。土壁が湿気を吸ってくれるせいか耐え難いということはないそうです。 暑さにつけ、寒さにつけ、土壁は熱容量が大きく快適な室内環境をつくるには絶好の材料です。一部の地域を除いて、手間や技術、材料等の問題で、なかなか使えないのが残念ですが・・。これを多くの野次馬的助っ人（？）、いえもっと真面目に勉強しようという人々を集めて人海戦術で造ってしまう「ワークショップで造る土壁の家」をこの間見学してきました。これは建築家の金田さんが左官の勝又さんの多大な協力と指導、施主の理解を得てやっているものですが、もう数棟目だそうで感服しました。都会ですら土壁をやる結のような方法があるのだ！これは又、いつか話題に・・・。
>
> 東京、長谷川さん

> 浜松に移り住んでまだ７年。その前は愛知県岡崎市に住んでいました。東名高速でたった１時間東に来ただけですので、気候的にはさほど変わりが無いと思うのですが、家に入った時の室温がまるで違います。エヤコンのスイッチを入れたのは年に１?２回。あまり使わないので、ドレイン管に虫が巣をつくり、久しぶりに使ったとき、排水が室内にあふれてきました。岡崎の家はグラスウール。浜松の家は土壁がついています。この涼しさの違いは土壁のおかげ！！！
>
> 静岡、寺川さん

[2]日差しコントロールに「軒の出」は必須

軒の出

> 
>
>
>
> 日本の気候風土を活かした住まい この図表は夏や冬における太陽高度の違いと建物の庇の関係を表したものです。夏は太陽高度が高くなり、長い庇があれば、太陽の熱が直接室内に入ってこないようになります。冬は太陽高度が低いため、長い庇があっても室内の奥まで太陽光を取り込むことができ、自然エネルギーの利用を高めることにより、より少ないエネルギーで生活することが可能になります。長い庇は、外壁に雨が当たることなどを防ぐこともでき、住まいの耐久性を高めることも実は出来るのですが、住まいのコストを目先のことだけで考えると違った答えを選択してしまうことになってしまいます。
>
> 滋賀、岩波さん

> 軒下空間をつくることで、夏の時期に建物廻りに日陰が落ちるようにし、太陽からの輻射を少なくします。総二階建ての場合は1m35cmほどにすることも。 雨から建物を守るためでもあり、 とっさの雨に洗濯物を軒下に取り込むなどの便利もあります。
>
> 愛知、丹羽さん

> 軒の出を深くする
>
> 三重、高橋さん

> 真夏の太陽からの熱射を室内に入れないよう軒の出をできるだけ深く（90cm?150cm）とります。
>
> 愛知、中村さん

> 軒の出、ケラバの出は３尺を標準としています。
>
> 三重、池山さん

> 真夏の太陽の熱射を部屋に入れないよう、軒を深くします。
>
> 静岡、寺川さん

> 庇の出を大きくとることで、日射を遮る。外壁面に影を落しますからその分、壁に熱を蓄えにくくなります。
>
> 埼玉、宮越さん

> 輻射熱を緩和しているのが縁である。最近の庇の無い洋風住宅は、この輻射熱の41度を直接家の中にいれている。輻射熱の影響を受けないためには、軒の出と縁側で、２Mは欲しい。なんだ、昔の日本の家だ。
>
> 熊本、古川さん

> 名古屋の温熱環境を研究している先生から、１年間を通じての室温の調査を依頼され、エヤコンの噴出し口の前と居間の中央部、廊下の３箇所に温度センサーをぶら下げてあります。そのうち結果が出ると思いますので、データーをもらい次第お知らせしましょう。
>
> 静岡、寺川さん

なぜ今の住宅は軒の出が少ない？

> 最近では、特にメーカーや建売住宅の屋根の軒の出が極端に短い。かつ、高気密に設計されていることが多いため、特に夏では日射を遮蔽することが出来ず、室内が高温となり、魔法瓶効果で非常に寝苦しい状況になることが多いのです。洋風のデザインが好まれるということもありますが、とりあえず屋根にかかる費用を少しでも抑えるというのが本音なのではないでしょうか。建物の費用を坪単価で表現するのが一般的になっていますから、屋根の軒の出は短ければ短いほど、住宅供給者の儲けになるのです。住まい造りがお金儲けの手段になり、日本の住まいとして当たり前にされていた工夫が捨てられているのは寂しいことですね。昔ながらの知恵のほかにも、現代ならではの問題に対応する解決方法を見つけることも大切なことだと思います。
>
> 滋賀、岩波さん

西陽対策

> 西陽に対して考慮も忘れないようにしないと夜間への残留熱がきつい。
>
> 愛知、中村さん

> 真夏の太陽の熱射を部屋に入れないよう、西側の窓は低く小さくしています。我が家の場合は玄関が西に向いているので、夏場は玄関の庇に簾を垂らします。梅雨明けが近づくと、玄関の外に簾を垂らし、網戸を設置して、暑さ対策は完了。「さあ夏よ来い！」といった気分です。
>
> 静岡、寺川さん

> 西日と冬の北風を入れないよう、北西側には大きな開口部を作らない。どうしても作る場合は西日を避けるよしずとか、北風を避ける防風壁を作るとか・・
>
> 三重、高橋さん

日中、家にいられない人のために

> 共働きの我が家では外出時ガラス戸を開けておき、外側の電動シャッターを下ろしてスリットを空けておきます。すると留守中でも家に風が通っていて、いつ帰宅しても快適です。
>
> 静岡、寺川さん

>
>
> まるで「すのこ」を立てたような雨戸 現代社会では共働きの家庭も多く、日中風通しを確保するために窓を開けておくことも難しい状況ですし、夜であっても網戸のままで鍵をかけずに寝ることも少し物騒です。 そこで、私の自宅では少し工夫をしてみました。既製品のアルミの雨戸枠にヒノキの枠材をはめ込み、ガラリ状に組み立て風通しを確保できるようにしました。また、２階が居間であるプランとし、戸締りにも配慮しながら、夜や外出中でも雨戸を閉めながらも風通しを確保できるようにしてみました。日中の室内への日射の侵入を防いだり、風通しの確保をすることで夜の寝苦しさはかなり防ぐことが出来ます。
>
> 滋賀、岩波さん

> 最近のプレファブのような家は、夏は、留守にして帰るとムッとするが、この家は、ホッとするほど涼しい。夏の日中は、窓（できれば雨戸も）しめて、極力日射を避けることと戸外の熱い空気の流入をさせないほうが、かえって室内が涼しい。
>
> 愛知、大江さん

> 共働きのご夫婦。夏の夕方、仕事から家に帰って玄関を開けたときの、 ひんやりさらっとした室内の空気感、檜と杉のブレンドされた香りがとても気持ちがよく、その日の緊張感も一気にとれて癒されるとのこと。日中の暑い外気を遮断し、土壁に蓄熱させていないことが、冷熱感に繋がっている。
>
> 愛知、丹羽さん

Like 0　ポスト

1 2 3 4

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2018年3月27日

伝統建築に携わるすべての職人に光を

2018年2月7日

「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ

2018年1月2日

新春特別企画 2017年のベストショット

2017年12月14日

第17期木の家ネット総会：倉敷大会 -民家改修と曳家-

2017年10月14日

気候風土適応住宅のチラシができました！

2017年9月4日

家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ

2017年8月8日

家にお風呂が入るまで

2017年6月30日

気候風土適応住宅のススメ

2017年6月3日

掛川総会３

2017年5月31日

掛川総会２

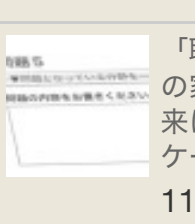
人気のある記事

冬の温熱調査合宿報告
15件のビュー

大工たちによる「家戻し」の記録
12件のビュー

設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して
11件のビュー

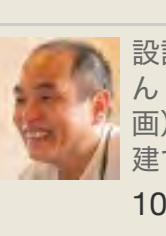
第三回これ木連フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告
11件のビュー


「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート
11件のビュー

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
11件のビュー

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
11件のビュー

古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー


設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
10件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

この記事のタグ

木の家の暮らしと子育て

環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事

2003年4月25日
設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える

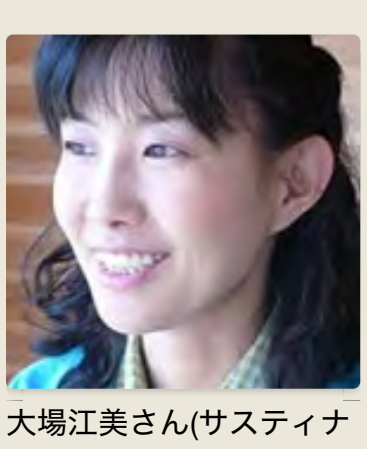
2005年7月25日
四天王幼稚園ワークスクール：ぼくがこれ、つくったんだ！

2006年1月26日
つくり手の声：木の家の良さって？

2004年7月25日
五月組：あのサツキとメイの家を建てる

2014年8月8日
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家

関連する記事はこちら


大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家

設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家

工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

[つくり手の声] vol.2

暑さ寒さとつき合う知恵

1 2 3 4

風が通り、空気の流れがうまれる工夫

風の通り、空気の流れ

> 風の通りをよくする為に、引き戸を多用し、室内の建具の開口をなるべく高くする。
>
> 三重、高橋さん

> 間取りは開放的に、間仕切りをできるだけ少なく。建具も極力引戸で引き込み可能として全面開放。
>
> 山口、久良さん

> なるべく機械冷房に頼ることのないように風の通り道を確保した家の造り方に留意しています。南北に風の通るよう窓を設けることは基本ですが、縦方向にも空気の流れる空間を設け高窓から熱気が抜けるように計画します。
>
> 愛知、中村さん

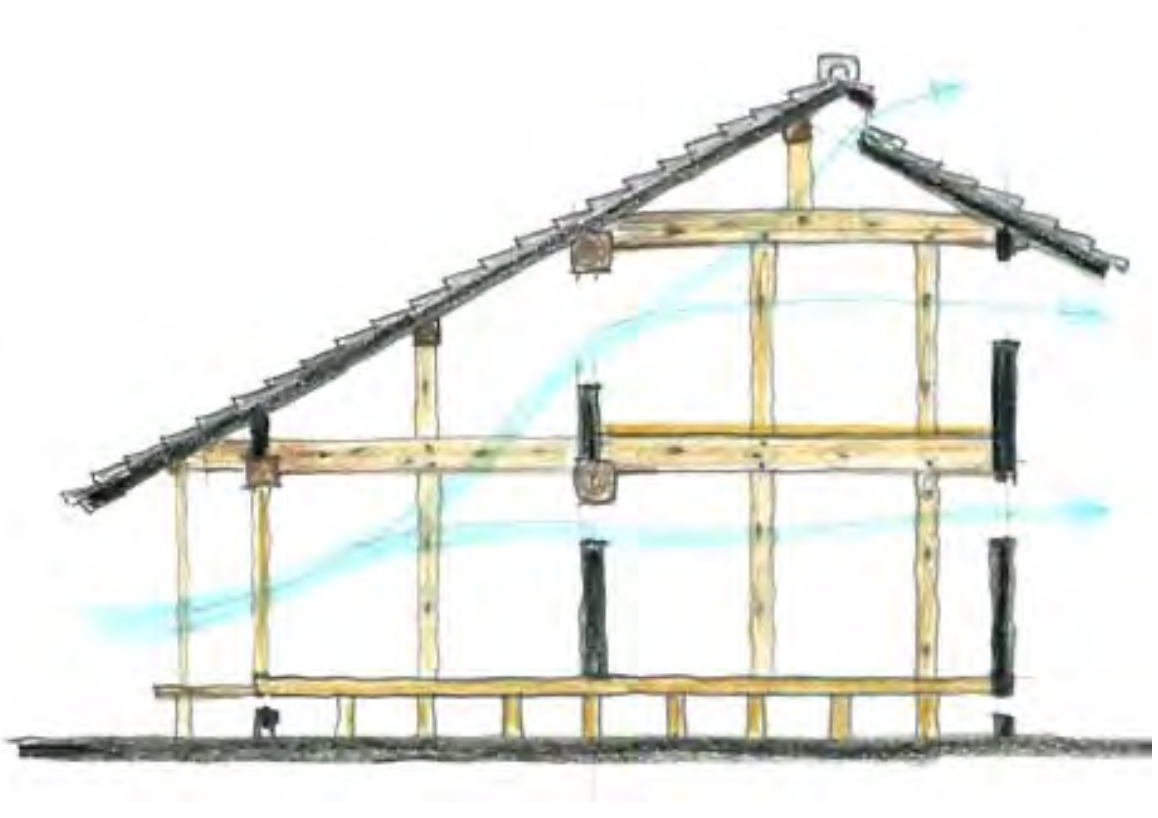
> 季節風を考え、自然に空気が抜けるよう、開口の計画をします。
>
> 三重、池山さん

> 玄関戸に網戸を用意したり、北側の屋根に開閉できる天窓をつけて、風の通り道を作っています。
>
> 静岡、寺川さん

> まずは空気の流れを作ること、対面する壁には複数の開口を取る。上部にも抜ける開口を作る。特に部屋の天井付近での通風は熱い空気が出て行きますから効果的でしょう。ランマ部分が開閉できると良いわけです。
>
> 埼玉、宮越さん

> 床下からの冷たい空気を玄関内へ取り入れ、夏の室内温度を少しでも下げる
>
> 愛知、大江さん

> 風が無い日でも空気の流れるような工夫は昔の家にはあった。例えばトイレの、高窓と足元の窓、など。
>
> 三重、田上さん

> 熊本は西に海がある。夏は陸地が温められるので、西から風が吹く。西から風を取り入れたいが、西日も入ってくる。
> 西陽は潜熱量が大きいので、窓の位置を低くして輻射熱の影響を少なくする。当然出口を考えないと風は入らない。建物の南の地面より、北の地面が低温である。その温度差で、空気が動く。無風状態でも、家の中で風が起こる。その風の通り道を確保するために、欄間をつける。なんだ、昔の日本の家だ。気温が同じでも、風があれば涼しく感じる。扇風機を廻しても気温は下がらないのに、人の体の汗腺から出た汗が、気化熱で体温の熱を奪う。エアコンで温度を下げれば、汗腺は閉まったままで開かない。健康にも良くない。子供をエアコンの部屋に住まわせたら、汗腺が自分は不要な存在と思い、閉ざしたままになる。そして退化する。本当に汗をかかなければならない時、汗腺が開かないのが無汗症である。一人の１台のマイ扇風機を持とう
>
> 
>
> 作図：古川保
>
> 熊本、古川さん

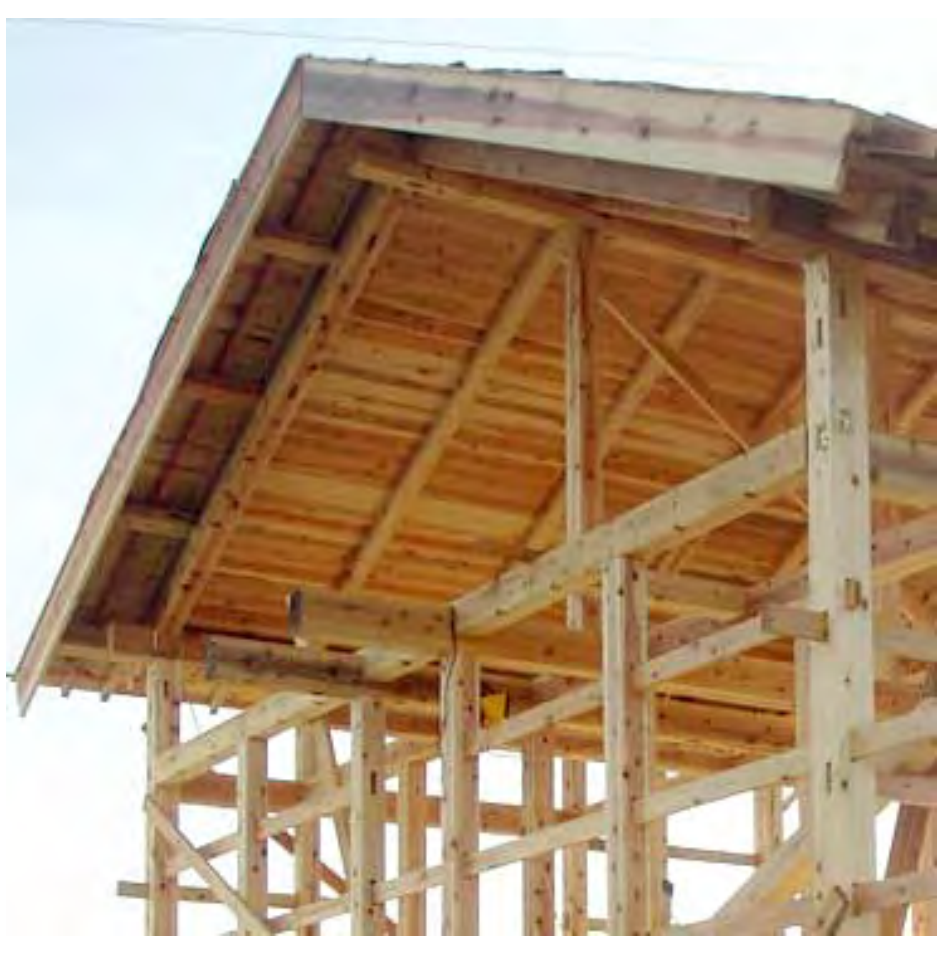
屋根を張らず、小屋裏通気層をとる。置屋根も。

断熱と通気層を屋根面で

> 天井を張らず、小屋裏現しにすることが多いので、屋根面での断熱、そして通気層の確保。
>
> 三重、高橋さん

> 最上階に天井を設けずに、小屋裏通気を重視することにより、滞留した熱い空気がたまらないようにする。
>
> 愛知、大江さん

置屋根

> 屋根の下の空間には、断熱層の外側に通気層を。置き屋根にし、蔵さながらの通気層をとることも。
>
> 
>
> 「軒の出」がない状態で、おおむねの雨じまいをし、その上に母屋（もや）を取り付け、垂木を流して「置屋根」にする。 念のために壁の中に忍ばせていた、エアコン用の専用回線も未だ使われることがない。真夏の午後、室内側から天井に触れてみても、やや暖かい程度で、快適。
>
> 三重、池山さん

その他、住まい方や家の敷地全体でできる、さまざまな工夫

建具

> スリット式雨戸
>
> 滋賀、岩波さん

> 木製の全面網戸は効果的である。網戸に格子を付ければ、夜、安心して開け放しができる。
>
> 熊本、古川さん

ヨシズ、すだれ、網戸

> ホームセンターで安く売っているヨシズと滑車を使った簡単な巻き上げ式のヨシズ
>
> 愛知、丹羽さん

> スダレなども使い方によっては効果が期待できます。壁や窓に直につけるのではなくある程度離れをとっておくことが良さそうです。日影のかたまりをつくることになり、スダレ部分で日射を遮り、放熱もしますからその内側への熱の伝達は軽減されるはずです。日除けのパーゴラなどもよいですね。
>
> 埼玉、宮越さん

> 四季を体験する日本人は、視覚・聴覚で自然を感じる。すだれを見たら涼しく感じ、暖簾の動きで風があるかのように錯覚する。風鈴の音や鈴虫の音でも涼を感じる。体感温度は１?２度低く感じる。エネルギーゼロの手法を使わない手はないだろう。
>
> 熊本、古川さん

> 我が家の場合は玄関が西に向いているので、夏場は玄関の庇に簾を垂らします。梅雨明けが近づくと、玄関の外に簾を垂らし、網戸を設置して、暑さ対策は完了。「さあ夏よ来い！」といった気分です。
>
> 静岡、寺川さん

外回り

> 車庫、イヌバシリなど、できるだけ土間コンを打たない。
>
> 山口、久良さん

打ち水

> 庭や屋根への散水も効果的。
>
> 愛知、中村さん

> 家のまわりに水撒きするのは効果的だし、水撒き自体が気持ちいい。
>
> 埼玉、宮越さん

植栽

> このごろ、樹木の大切さをつくづく感じます。家を造るときは必ず、生垣や陽よけ、風よけの樹を植える予算を、家を削ってでも残すか、どうしてもだめなら自分で植えてもらうよう、すすめたいと思います
>
> 東京、長谷川さん

> 南の窓の外側に大きい木を植えて、西日を遮るようにしています。
>
> 静岡、寺川さん

> 通風と風の流れをつくる植栽計画も大事です。もっと簡単なものとして、ゴーヤやひちまなど、つる性の夏の植物を竹やネットなどに這わせる「緑のカーテン」は昔から日本家屋の夏の風物でもあったわけですが、今は小学校の教室を涼しくするために大人気。窓の外で日射を防ぎ、植物の葉の蒸散作用で涼風を取り込む．これを庭側の開口部に設置。昨年はゴーヤが豊作でした。
>
> 東京、林さん

>
>
> 当事務所は西日をもろに受けてしまいますので、パーゴラをはへチマ棚にして日差しを防いでいます。ただ、葉がいっぱいに覆い茂るまでには忍耐の時期があるわけです。7月中はまだ、葉で被われる状況にはならないので厳しい西日をモロに受けます。スダレとブラインドとハンギングしているプランターに散水でしのぐ。特に西側にはNTTの大きな駐車場があって、最悪の照り返し。だから、夏は雨の日が嬉しいですね。こんな絵があります。昔の人もこうやって涼を取っている。やっぱり、日中は暑かったのでしょうね。きっといろいろな工夫をしながら生活していただろうと想像できます。
>
> 埼玉、宮越さん

> 地面の照り返しがあっても、緑の表面温度は33度を超えない。西から風が来れば、西方向の樹木を抜けた風はラジエーター現象で、気温が33度近くに落ちる。大体木10本が目安である。
>
> 熊本、古川さん

緑化

>
>
> 板金屋根の上から軽量土壌を敷いて行った屋上緑化 さるイベントにて、さるさる木造パビリオンの横に「木造平屋建て芝生葺き屋根」のスタッフ管理棟を建てさせてもらいました。はじめは板金屋根の予定でしたが、雑木林に囲まれた立地条件と夏の真っ盛りのイベントでお客も詰め掛けるという訳で、板金屋根の上から軽量土壌を敷いて、芝生や雑草を。定期的な散水システムも施し、半年間の会期の間スタッフや見学者たちを強い日照りから守ってくれていました。「屋上緑化」はコンクリート造の建物では最近時々見られるようになりましたが、木造ではまだ少ないようです。水仕舞いをしっかり考えないといけませんが、将来的にこのような涼のとり方もアリかなと思います。ちなみにこの建物はまだ撤去されずに残っていますので、となりの古家といっしょにご覧になってください。
>
> 愛知、中村さん

> 昨年竣工した「武蔵野・草屋根の家」は東京でできるエコライフのために今考えられることを一通り（しかも限られた予算で）試してみた住宅です。 草屋根は断熱材でもあり、屋根面から外気への輻射熱も押さえます。
>
> 東京、林さん

> 私事で申し訳ありませんが、我が家は蔦ですっぽり覆われてしまいました。こんなことは絶対やってはいけない。家が腐ってしまう。我が家の場合、外壁と屋根が安い鉄板波板なので、まあいいかと放っておいたらこの様です。ヤモリやクモとも共生の家です。しかし、涼しいことには涼しい。近所の人が緑の壁に向かって住むので気持ちがいいと褒めてくれました。我が家の例は勧められませんが、西壁などで家から少し離して金網か格子を設け、つる性の植物を這わせるなどすると良いかと思います。ブロック塀などは蔦を這わせて全部覆っても良いですね。
>
> 東京、長谷川さん

> 東京で心地よく暮らすには、猫の額のような自分の敷地だけではもはやどうしようもないと思っています。周りの環境がより改善されない限り、東京生活の未来はない（！）のではないかと。つまり、一つの住宅から始めて周囲へ、街へ、東京へ、日本へ、地球へとつながっていく、そんな気持ちで提案をしていきたいと思うのです.
> 今、東京で一番気を配っていることは夏場の外気温を下げ、東京の空気をきれいにすること、風の道をつくること、水を土に帰してあげることでしょうか。
>
> 東京、林さん

Like 0　ポスト

1 2 3 4

関連する記事はこちら

大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家

設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える

設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家

工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2016年12月23日 掛川総会
2016年8月2日 込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
2016年6月21日 熊本震災レポート2
2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録
2016年5月21日 熊本震災調査レポート
2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート
2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを探る 〜2016.1.17 京都フォラム報告
2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜
2015年11月13日 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事
冬の温熱調査合宿報告 15件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録 12件のビュー
設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して 11件のビュー
第三回これ木連フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告 11件のビュー
「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート 11件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 11件のビュー
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家 10件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー

この記事のタグ
木の家の暮らしと子育て
環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事
2006年1月26日 つくり手の声：木の家の良さって？
2004年7月25日 五月組：あのサツキとメイの家を建てる
2003年4月25日 設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える
2005年4月27日 サツキとメイと私の家：愛・地球博レポート
2008年6月27日 大工・綾部孝司さん(綾部工務店)：原点回帰

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

8月α2時
外
壁
内部
41度
35度
31度
[つくり手の声] vol.2
暑さ寒さとつき合う知恵

1 2 3 4

Like 0　ポスト

「木の家は寒い」は昔の話

寒さについての対策の話は、暑さ＆湿気対策の話とくらべると、少数でしたが、今、主流であるような家づくりが進んだ背景には、特に寒い地方において高気密高断熱住宅がほとんど、という情況になっているのは「日本の家はすきま風が多く、底冷えがする」ということに満足していなかったから、という面もあるでしょう。埼玉に住む宮越さんは「こういう家に住みたくないから、建て替えたい」という代表のような？一軒家に事務所を構えています。

> “ 数年前に自宅近くに築40年近い安普請の木造の平屋を借り事務所にしています。壁にも天井にも床下にも断熱材は入っていませんし、現在の省エネ基準の仕様からいったら論外のひと言。冬は寒くて、夏は暑い。屋外の気温の状況はそのまま室内の状況とほとんど変りません。よく言われる「木造は隙間風があって寒いでしょ」という状況を自ら体感できています。冬は室内をコンパクトに仕切って、ファンヒーター+足元を床暖房ぐらいしないとさすがにつらい。壁が熱を蓄えてくれるとよいのですが、断熱材は入っておらず、プラスターボードに白ペンキ仕上げ程度ですので、熱は逃げてしまいます。（柱は現しの真壁ですのでその部分が気に入っているところなんですが）
>
> 埼玉、宮越さん ”

岩波さんも木の住まいなどでよく言われる「家は夏を旨とすべし」というのではこれから少し不足かなと思います。と書いているように、ある程度以上の「快適」に慣れてしまっている現代人の私たち、室内環境に対する要求も昔より高まっているのですし・・「気密性」「断熱性」は考えない、というわけにはいきません。 暖房性能と関係の深い「気密性」については、エアコンに頼るのでない家づくりにするのであれば「そこそこ」がいいようです。

「そこそこの気密性」対策

> “ ハウスメーカーを中心とした工業化住宅のように、気密性を売り物にするため、他を犠牲にするのは良くないことですが、現代住宅では、アルミサッシなどの工業製品も良いところを活かしながら採用して、丁寧な施工を行いながら住まい造りを進め、そこそこ気密性の高い住まいを作るべきだと思います。大工仕事だけでなく、断熱のことなどにも知識のある工務店さんに丁寧な施工をしていただくだけで、今まで日本の住宅が持っていた欠点は簡単に克服することが可能です。
>
> 滋賀、岩波さん ”

> “ 一番の弱点であった、窓やドアの気密性能は省エネの掛け声もあって、最近は格段によくなっています。正当に施工されて、ちゃんと断熱材あるいはそれに代わるものがはいっていれば、「隙間風があって寒いでしょ」ということはまずない。少なくとも冬に対しての問題は少ないと思われます。
>
> 埼玉、宮越さん ”

> “ 九州でも厳寒の日は年に１週間ぐらいある。鹿児島だって雪が降ったこともある。その1週間の寒さが脳卒中を起こすとか、恫喝商法まがいのコピーで高気密高断熱住宅会社は住宅販売を行う。1週間の寒さ解消が、残りの358日に害を与える。
>
> 熊本、古川さん ”

気密性はそこそこであっても、断熱はきちんとした方がよいようです。フォレストボード、羊毛、ペットボトルをリサイクルしたPPなど、エコ系の断熱材も出て来ていて、多くのつくり手が使っているようです。

断熱材は、必要

> “ 断熱材は入っていないといけないんです。種類によっても性能は違うのですが、入っているかいないかということがまず重要。そしてそれが壁や天井などに隙間なく充填しきる施工ができていて、その状態が維持できるのかの方が肝心です。
>
> 埼玉、宮越さん ”

> “ 薪のボイラーの床暖房、土壁の保熱、床下のフォレストボード断熱。予算がなかなか難しい！
>
> 三重、田上さん ”

> “ 屋根からの輻射熱を防ぐために、自然素材断熱材を基準より厚くする。
>
> 愛知、大江さん ”

> “ 断熱材の種類をちゃんと考え（これが意外と難しい）、施工性も考えた収まりを考えることがすごく重要です。そういった施工に杉板の床材などの採用がプラスされれば鬼に金棒と言ったところでしょうか。
>
> 滋賀、岩波さん ”

> “ スウェーデンのエコ住宅は、断熱材が26cmもあるといって真似る住宅があるが、夏季、冬布団を着るようなもの。断熱材は地域に合った厚さが良い。
>
> 熊本、古川さん ”

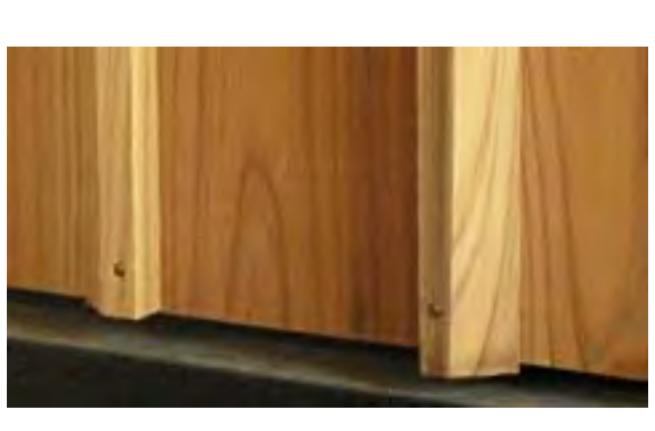
温度変化のゆるやかな床下の熱を利用

> “ ここ10年位、床下通気をせず、基礎内を室内と同じ環境として扱い、ストーブ等で温まって天井に溜まった空気を1階床下へ強制的にゆるく循環して、1階床隅に吹き出すようにした家を多く造っています。これは、ベタ基礎又は土間コン打ちの熱容量の大きい基礎の場合なので、床下温度の変化がゆるやかで、冬は特に1階床面が快適です。外気の影響が少ない分、地熱の影響を受けていると思います。弥生式住居ではなく、縄文式住居というべきか。
>
> 東京、長谷川さん ”

土壁と漆喰壁の間に空気層をもうけ、断熱材がわりに

> “ 長野県臼田で、小舞土壁とラスモルタル漆喰塗りとの二重外壁にし、両者の間に閉じ込めた空気層をもうけた家を建てました。壁は断熱材なし、メイン暖房はいずれも全館サンポットストーブ１台でまかなっています。冬、ストーブを前の晩10時ごろ消しても、朝、例えば外気温?10°C位の日、室内は10°Cを下がらないとのこと。
>
> 東京、長谷川さん ”

北風対策



> “ 冬の寒さと八ヶ岳下ろしとよばれる強風対策として、北側にチドリ（板と板を互い違いに貼る）にした板壁や雨戸を設けます。
>
> 山梨、松田さん ”

最後に、木の家ネットのつくり手ではもっとも寒冷地でがんばっている西條さんの回答をご紹介しましょう。 北海道では伝統工法の家は皆無。高気密高断熱の家ばかりです。道南地方にはスギがあるのですが、それを住まいに使おうという人は、つい最近まで誰もいなかったのだそうです。そんな中で、西條さんは「自然素材」という観点から、道南杉を使った家づくりを進めています。

> “ 「木の家や自然素材の家は寒いのでしょう？」と聞かれることが多いが、断熱、蓄熱、呼吸性のバランスで、寒くなくはできます。
>
> 北海道、西條さん ”

とはいえ、自然条件が違いますから、本州以南と同じようなつくり、というわけにはいきません。雪対策や暖房をすべて灯油でまかなおうとすれば、ランニングコストがかかり、環境にも負荷がかかります。そこを最小限にする工夫をいろいろされていますので、かいつまんでご紹介します。

雪ハネ（雪下ろし）

雪を家の周囲に落とさないよう工夫された平らな屋根

> “ 年間の１/3は雪に埋もれた生活。多い日には一日3回以上雪ハネがつらい。都市部では屋根の雪を敷地に落とせないのでスノーダクトやフラットルーフ、スノーストッパールーフなどの鉄板屋根に雪を載せて落とさないのが一般的になっています。乾いた軽い雪は強い風で飛ばされ一定以上は積もらないのです。 ”

床下を寒くしない

> “ 床下からの熱損失を減らすために基礎を外断熱にし、床下の環境を室内と同じ条件に近づけています。温水セントラル暖房の場合、配管を床下の基礎伝いに這わせて基礎コンクリートに蓄熱。床下を寒くしなければ、過剰な床暖房設備はいらない。スギやマツなどの柔らかい感触の木の床でいい。 ”

融雪

ポンプアップした井戸水を利用する融雪層

> “ 雪の問題で都市部の住宅にはロードヒーティングや融雪層を持つ家庭が多く、敷地内や前面道路の雪を溶かして処理しています。一般的な住宅では灯油温水ボイラーを使うのが主流ですが燃料費が大変です。僕の事務所（自宅併用）の雪はコンクリートの層にお風呂や洗濯の排水を流してその熱で雪を溶かす簡易融雪層と、離れた駐車場は、もともとあった井戸水をポンプアップしてFRP製の中古水槽に流して溶かす地下水融雪層が大活躍。ポンプの電気代だけで済み助かります。 ”

北海道にもともと住んでいたアイヌ民族は、チセと呼ばれる寒さに対する構えも最小限、炉辺にあたって暖を採るというだけのシンプルな家に住んでいました。日本人も暖房というほどの暖房はしていませんでした。・・・が、そうはいかないのが、現代人の生活ですね。

なぜ、地域によって家のかたちが違うのか

今回のブログの投稿はやや中部地方の層の厚い感じで、北海道以外の寒い地方や多雪地帯のデータが少なかったのですが、それでも、それぞれの地域での工夫があることが垣間みられたことと思います。引き続き、ブログの記事が増えて行く可能性もありますので、トップページの右側にある最新ブログエントリー一覧で、6/25以降のブログエントリーにもご注目ください！ 最後に、気候風土と関わる中で生まれてくるデザインについてのコメントを引用して今回のまとめを終わりにします。

> “ 地域性のあるデザインは無理やりつくり出していくものではありません。技術者や職人の知恵や工夫の中で自然に出来上がってくるものです。今後も社会形態の変化に対応した住まいづくりの中で落ち着いた都市景観や風景が作り上げられていくと良いのにと思っています。
>
> 滋賀、岩波さん ”

Like 0　ポスト

1 2 3 4

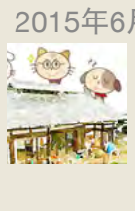
木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2015年11月9日
第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会

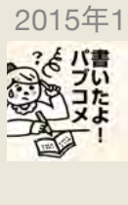
2015年9月15日
里山循環大工：池山琢馬（一峯建築設計）

2015年7月27日
独立電源＝オフグリッドの家


2015年6月13日
どう？ 古民家暮らしって？？

2015年5月6日
冬の温熱調査合宿報告

2015年3月13日
伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！


2015年1月6日
私はこう書きました！ 木の家ネット会員が出したパブコメ

2015年1月1日
改正省エネ法についてのパブリックコメントを出そう！

2014年12月12日
改正省エネ法で、土壁はどうなる？

2014年11月26日
無くなっては困る！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション

人気のある記事

冬の温熱調査合宿報告
15件のビュー

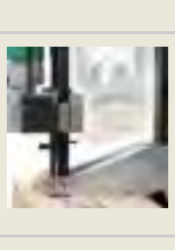
大工たちによる「家戻し」の記録
12件のビュー

古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー

設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して
11件のビュー

第三回これ木連フォーラム「伝統構法はこれからどこへ向かうのか？」の報告
11件のビュー

「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート
11件のビュー


込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
11件のビュー

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
11件のビュー

設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
10件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

この記事のタグ

木の家の暮らしと子育て

環境と共生する家づくり

同じタグがついた別の記事

2004年7月25日
五月組：あのサツキとメイの家を建てる

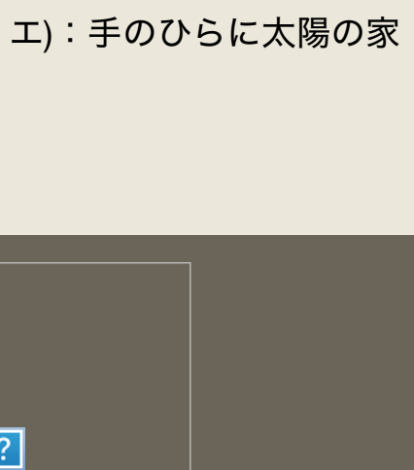
2014年6月5日
大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家

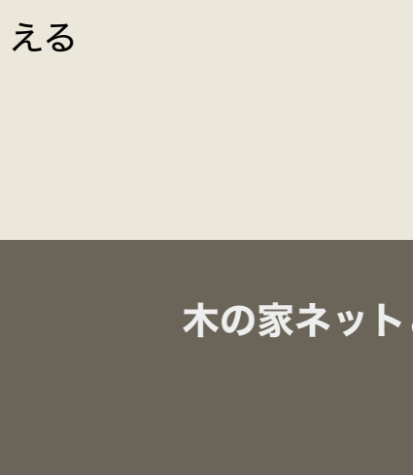
2010年5月31日
設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

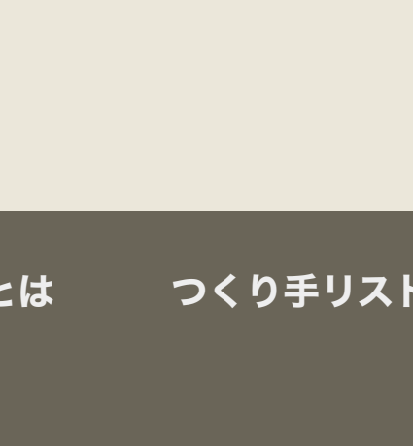
2014年8月8日
設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家

2006年1月26日
つくり手の声：木の家の良さって？

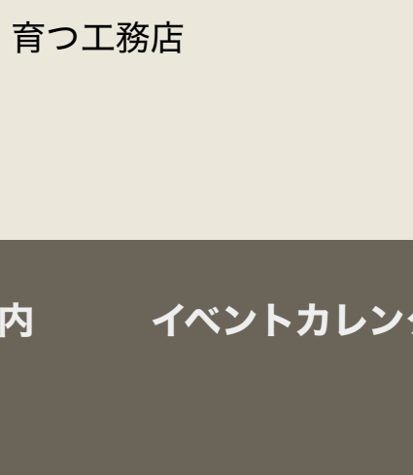
関連する記事はこちら


大場江美さん(サスティナライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家


設計士・岩波正さん(三和総合設計)：なんで木の家がいいのか、とことん考える


設計士・吉野勲さん(創夢舎)：家族が つどう、地域が そだつ

設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家


工務店・直井徹男さん(エコロジーライフ花)：発信しつづける工務店、人が育つ工務店

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464